

2014年3月1日

体内に植え込んだままでも MRI 検査ができる医療機器 (ICD、CRT-D) 登場

体内に植込んで心臓の働きを補助・回復させる ICD (植込み型除細動器) や CRT-D (両室ペーシング機能付き植込み型除細動器) は、心臓病患者を致死性の不整脈や心不全などから守る重要な医療機器だ。

しかし精密な電子機器とあって、これを植込んだ患者は MRI を使用できないのがデメリットとされている。だが、昨年 10 月、条件付き MRI 対応の ICD と CRT-D が登場。医療現場や心臓病患者の間で注目を集めている。

現代人に多い脳血管障害やがんの検査に欠かせないのが MRI。特に脳血管障害は心臓病がその発症に起因することもあるので、MRI 検査が可能になったのは心臓病患者にとってまさに朗報です。

これにより、例えば脳動脈瘤などの検査はより正確性が増し、今後はカテーテルなど患者の負担を軽減する治療法をとることも可能になります。

さらに、この機器が備える遠隔モニタリング機能にも注目。

電話回線やインターネット経由で常に病状が確認できるため、通院の負担が軽減されるだけでなく、病状の悪化などの確認や患者の安心につながります。

以上